

## 研究・調査報告書

報告書番号	担当
35	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
<b>題名 (原題/訳)</b>	
The "gray area" of consumption between moderate and risk drinking. 中等度と危険な飲酒の間にある飲酒の「グレー領域」について	
<b>執筆者</b>	
Dawson DA, Grant BF.	
<b>掲載誌 (番号又は発行年月日)</b>	
J Stud Alcohol Drugs. 2011;72(3):453-8.	
<b>キーワード</b>	
Dietary Guideline for Americans、グレー領域の飲酒量	
<b>要 旨</b>	
<b>目的:</b> 2010年のDietary Guideline for Americansでの変更案について、新たに「中等度」に含まれた飲酒量がアルコール使用障害と有意な関連があるかどうか検討することを目的とした。	
<b>方法:</b> アメリカ一般成人(26438人、女性51.8%)において、9つの現在の、8つの前向きアルコール使用障害に関する指標について、それぞれ相対リスク、人口寄与危険度割合を、以下の3グループで比較検討した: 旧2005年Dietary Guideline for Americansにおける中等度の飲酒量、「グレー領域」つまり2010年のDietary Guideline for Americansで提唱され、新たに「中等度」に含まれた飲酒量、2010年Dietary Guideline for Americansの提言量を超える飲酒量の3群に分けて検討した。	
<b>結果:</b> 「グレー領域」の飲酒量は少しではあるが有意に、アルコール依存の有病率・発症率、アルコール性対人問題の発症率、および失業率といったリスクの増加に関連していた。しかし、医療状況や精神障害とは関連がなかった。「グレー領域」の飲酒量と関連した障害の絶対的、相対的リスクは低いが、この領域に該当する飲酒人口は大きい(29.1%)、その有害な影響は無視できない。ベースライン調査時の「グレー領域」の飲酒者におけるアルコール使用障害の圧倒的大部分は、フォローアップ期間中に2010年Dietary Guideline for Americansの提言量を超える飲酒量の増加と関連していた。	
<b>結論:</b> 2010年Dietary Guideline for Americansによって提唱された変更がグレー領域のアルコール消費量が良い影響があると示唆しているのとらえることを避けるための二つの異なるアプローチを推奨した。	